

「年金は下がる一方で、国保税が高く大変」「もっと学習し、改善に向けた運動を盛り上げよう」 松本市の国保を考える市民学習会 (10/14) 38名参加



松本地区社保協は、さる14日(日)「松本市の国民健康保険を考える市民学習会」を開催しました。当日は新聞で学習会の開催を知ったと思われる市民2名を含め38名が参加しました。

学習会は、久保田会長から主催者あいさつ(左写真)があり、湯浅事務局長が「松本市の国民健康保険の現状と改善のための課題」とする基調提案がありました。

基調提案では、「松本市の国民健康保険は2つの問題を抱えている」として「①松本市の国保税は、県下19市で最高水準で『払える水準』を超えている。納付率が8年連続で19市

最低を記録。また、医療費の窓口負担が3割と重く、安心して病院に罹れず、『手遅れ死亡』など不幸な事例が存在している。②松本市の国保会計は不安定で、『火の車』状況である」とした。続いて、今年4月に発足した「国保の都道府県単位化の影響を考える」として「都道府県単位化でどう変わったのか、松本市国保に与える影響について」報告がありました。最後に、「どうしたら問題だらけの松本市の国保を改善できるのか」そのための課題の提案があり、「国と県に対して国庫負担金、県支出金の大幅増額を求めつつ、それが実現するまで松本市の一般会計から国保会計へ10億円規模の法定外繰入を恒常的に実施させ、国保税の引き下げと各種減免制度の拡充を図りながら、国保会計を安定化させていくこと」「そのためにも国保改善の市民的世論の高揚が重要、来年4月の市議員選挙でこの問題を大きな争点になるよう奮闘しよう」と提案がされました。

基調提案のあと、松本協立病院のケースワーカー(右下写真)から「来院時には、すでに手遅れであった経済的な事由と思われる事例」等の紹介、松本生健会の代表からは「松本市の国保税がいかに高いか」自身の生活実態から告発的な発言がありました。また、市内で食堂を営業している松本民商の代表は「国保税を支払いが大変」との発言あり、今期松本市の国保運営協議会の委員の公募に応じ、委員として内定したとの報告があった。あと、年金者組合の代表、健康友の会の方、生健会の方からの意見表明や市議員からの発言がありました。最後に事務局長が学習会のまとめとして「本日学び合った内容を、多くの市民にも知らせ、松本市の国保が抱えている現状や改善のための課題など市民の声を大きくしていこう」と呼びかけました。

参加者からは「年金は下がる一方で、国保税の負担は大変」「有意義の学習会だった」「もっと学習し、多くの人に伝え、改善のための活動をしたい」などの感想があった。



安曇野市国保税率平均5.3%引き上げ提案

安曇野市は、来年度国保税の税率を平均5.3%引き上げ、12月議会に条例改正案を提出するとしている。安曇野市は国保の都道府県化に伴い、県の「方針」にしたがい来年度から固定資産税に応じた税率を廃止し、その分所得割の税率を引き上げる。その場合、国保税率は平均12.5%の引き上げが必要で激変緩和として5.3%に抑える。しかし、市では「3年後の状況を見て税率改定が必要か検討する」との方針。このような県単位化を口実した国保税の引き上げ計画は、重大問題。松本地区社保協としても、安曇野市の関係者と連携した活動を展開する予定。